

国語 第4学年 自分だけの詩集を作ろう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、目的をもって詩を読み、選んだ理由が伝わる紹介を付けて詩集を組む。好きという感想を、作品のどの言葉から感じたかに結び付ける。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名 「自分だけの詩集を作ろう」 教材名「自分だけの詩集を作ろう」

2 単元の目標

読書に必要な知識や情報を得ることに役立つと気づき、目的に合う詩を探すことができる。相手や目的に合わせて紹介する詩を選び、集めた材料から伝えたいことを明確にすることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。詩の感想を共有して、感じ方の違いに気付くことができる。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①読書に必要な知識や情報を得ることに役立つと気づき、目的に合う詩を探している。（〔知識及び技能〕(3)オ）

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、相手や目的に合わせて紹介する詩を選び、集めた材料から伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）

〔思考・判断・表現〕②「読むこと」において、詩を読んだ感想を共有し、感じ方に違いがあることに気付いている。（C(1)カ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

目的をもって詩を読み、選んだ理由が伝わる紹介を付けて詩集を組む。好きという感想を、作品のどの言葉から感じたかに結び付ける。学習指導要領のB(1)ア・C(1)カを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(3)オを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

図書館の利用可能な詩集を手元で読み、題名・作者・掲載本と選んだ理由を記録する。配布物は自作の紹介を中心にし、引用が必要な場合は授業と権利の条件を教師が確認する。おおむね満足できる状況は、相手や目的に合わせて紹介する詩を選び、集めた材料から伝えたいことを明確にしているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全4時間）

第1次 第1時：○詩集のテーマと読む相手を決める。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時（本時）：○複数の詩を読んで選んだ理由を記す。 評価：思①・②（選んだ材料・交流記録）

第3次 第3時：○紹介文と目次を考える。 評価：学習状況を見て支援する。

第4次 第4時：○読み合って選び方や紹介を見直す。 評価：態①（学習前後の記録・振り返り）

6 本時の指導 (2/4)

(1) 本時の目標

相手や目的に合わせて紹介する詩を選び、集めた材料から伝えたいことを明確にすることができる。感想を共有し、読み手による感じ方の違いを確かめることができる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「この詩を同じ詩集に入れたいのは、どんな理由ですか」

【めあて】目的をもって詩を読み、選んだ理由が伝わる紹介を付けて詩集を組む。

予想される児童の反応：・景色を感じる言葉が共通している。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「この詩を同じ詩集に入れたいのは、どんな理由ですか」

複数の詩を読んで選んだ理由を記す。

詩集の目次案、作品の題名と出典、選んだ理由の紹介文。

自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。

紹介したい詩の感想を伝え合い、同じ詩でも読み手によって着目する言葉が違うことを確かめ、紹介する理由を見直す。

予想される児童の反応：・景色を感じる言葉が共通している。

・読むと元気になる感じが違う作品にもある。

・友達の選び方を聞いて組合せを変えたいくなった。

指導上の留意点：図書館の利用可能な詩集を手元で読み、題名・作者・掲載本と選んだ理由を記録する。配布物は自作の紹介を中心にし、引用が必要な場合は授業と権利の条件を教師が確認する。

想定するつまずき：既成の詩を無断で複製して配布する、題名の共通点だけで選ぶ。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思①（選んだ詩と紹介理由の記録）・思②（感想の交流と見直した記録）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・友達の選び方を聞いて組合せを変えたいくなった。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。

評価：態①（学習前後の記録と、見直した理由）

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この詩を同じ詩集に入れたいのは、どんな理由ですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

